

本校の就職活動について

北海道稚内高等学校
教諭 井上 信門

1. はじめに

私が本校に赴任したのが4年前になります。赴任当初から就職指導担当者として役割を頂いたのですが、今までの流れや経緯を十分に理解できないままスタートしました。事があることに、前任者に「なぜ?」「どうして?」と質問するのですが、明確な回答を得られたことが少なく、私がこれまでに経験してきた就職指導と異なる点が多くあると感じていました。

そこで一念発起し、今までの良い指導は残し、理由のわからないものは改善し、体系化された就職指導ができるように取り組んできました。

2. 就職指導について

本校は普通科・商業科・衛生看護科を有する学校ですが、就職希望者は必ずしも商業科の生徒だけではありません。その商業科においても、近年はクラスの約半分が就職希望となっています。また、進学志向の強い普通科の生徒は大学・専門学校等の上級学校へ進学する割合が高く、今年度の就職希望者は11名（公務員7名）と例年少ない人数であることが現状で、今後もこの傾向は変わらないと考えます。

学科に限らず、入学当初より民間就職を希望する生徒には、その姿勢を作らなければならないと考え、1年次より就職の指導を行っています。

〔1学年〕

- 通 年 総合的な探究の時間 → 自己理解について
- 10月 就職ガイダンス（外部講師による）
企業見学（商業科のみ。昨年は、宗谷総合振興局様に伺いました）
- 11月 てっぺん宗谷 de 仕事発見フェア（商業科のみ）
職業人講話（OB・OGによる）
- 12月 就職意識形成セミナー（主催 職業訓練法人 稚内地方職業訓練協会）

〔2学年〕

- 通 年 総合的な探究の時間 → 企業・学校調査（昨年度より“企業図鑑”作成）
上記終了後、分野別学習（大学・専門学校・就職・公務員に分かれて）
- 10月 就職ガイダンス（外部講師による）
インターンシップ（商業科3日間、普通科1日 実施）
企業見学（商業科のみ。昨年は稚内信用金庫様に伺いました）
- 11月 てっぺん宗谷 de 仕事発見フェア（商業科のみ）

〔3学年〕

- 通 年 総合的な探究の時間 分野別学習（上記、継続）
就職希望者は、就職までの流れの確認と、校内的な手続きの説明を4～5月に実施
- 7月 合同企業説明会
応募前企業見学

〔保護者〕

- 4月 3年保護者就職ガイダンス
- 5月 1・2年保護者就職ガイダンス

この他にも、商業科においては、「建築土木講話」「林業講話」「漁業講話」など、稚内市のそれぞれの職業分野の方に来校していただき、講話を実施しています。生徒が「地元の職業」を知る好機と考えています。

3. 総合的な探究の時間における就職指導について

就職希望の生徒のスイッチが入り始めるのが、7月に実施される「合同企業説明会」です。希望する企業様からお話を伺ったり、興味のある企業様の話を聞くことで、“そろそろ本格的に頑張らないと”という意識が芽生えます。

その少し前から、面接練習を開始します。その後、夏休み、夏休み明け、九月初旬に面接練習（個人・集団）を計画的に組み、3学年や進路担当の教員の協力を得て、実施しています。そのため、最後の面接練習の計画が終了しても、子どもたちの意識が高まり、自分から先生に申し出て練習するという姿勢ができています。

履歴書記入練習は、4月より実施しています。志望の動機欄以外は5月までには、ほとんどの生徒が完成しています。志望の動機は、生徒の受験する企業が決まってからの指導になりますので、生徒→担任→国語科教員→担任→生徒という流れで添削指導をしています。

作文指導においては、国語科の先生のご協力のもと、過去に出題された題や同じ業種で出題された題で作文を書き、添削指導を行っています。生徒の自主性によるところが多いため、個によって取り組み姿勢が異なります。

一般常識については、問題集を購入させ、各自で取り組ませています。総合的な探究の時間で、時間を取って一般常識を勉強するということはしていません。

4. おわりに

私が担当している4年間は、ほとんどの生徒が第一希望とする企業へ就職することができています。担当者としては、私たちが導くのではなく、生徒自身が「この仕事をしてみたい」という希望を叶えていくために、どういう力添えをしてあげられるか？ということを考え、実施してきました。

今後においても、「稚内市に残って、稚内市で活躍したい！」と就職を希望する生徒に対して、その希望の実現に全力でサポートしていく所存です。